



## 着眼大局・着手小局

常務取締役

室木 勝彌

Katsuya Muroki  
Managing Director



題記のような言葉があります。浅学のため出所は知りませんが、私の好きな言葉であり、座右の銘にしております。

辞典を引くと、着眼大局とは「大局に目をつけ戦略を練ること。局とは広く情勢（局面・時局）をさす」とあります。

戦略思考のプロセスは、軍隊も企業も勝負事も、基本は同じ。大局をよく見て戦略をたてないと、局地戦で勝っても戦争には負ける。

戦略は大所高所から。戦術は戦略を実現するため小局に即して堅実に進めることが肝心。しかし戦略こそが第一で、戦略上のミスは戦術ではカバーできない。つまり、戦術（小局）はやり直しがきくが、戦略（大局）のやり直しはきかない、というような主旨です。

さて、技術開発における着眼大局は、なんだろうか。私は、それは「夢を持つ」ことだと思います。将来はこういうふうになったらいいなとか、こういうものがあつたらいいな、ということ、まず自分自身が持つことが大切です。

私が入社した頃の火力発電プラントの熱効率は、最高で39%くらいでした。当時の関係者は皆、なんとか棄てる熱は半分以下にしたい、つまりプラントの熱効率が50%を超えることが夢だったわけです。そして約40年後の現在、1500級のガスタービンを使ったコンバインドサイクルプラントにより、それが現実のものとなりました。

先日何かの雑誌の記事で、「最近の子供は未来に夢を描けなくなってしまっている。21世紀の未来図を募集したら、地上はすべて汚染されてしまい、人間が住む所がなくなっている絵を描いてきた」と嘆いておりましたが、本当にそうなら、これは由々しきことで、技術立国を目指す日本の将来のためにも、ぜひ今の子供には、大きな明るい夢を持ってもらいたいし、また我々大人も、人生に対して再度夢を持つことが大切ではないでしょうか。

日常の仕事の上でも、大きな、そして適確な目標を持ち、それに向けてやれることから着実に、堅実に実

施していくことが重要ですが、昨今のようにめまぐるしく変化する世の中にあつては、着眼大局にも、着手小局にもスピードがことのほか重要になってきております。計画段階での判断、決断のスピード、実施段階でのスピード、この両方のスピードが、すなわち自由化社会での競争力といっても過言ではありません。スピード感あふれた着眼大局・着手小局を心がけたいものです。

ところで、我々ミドル、シニア世代の最大の関心事は健康のことだと思いますが、健康における着眼大局・着手小局は何でしょうか。

私は着眼大局は「120歳まで生きる」ことだと考えています。

人間をふくめた哺乳類は、大人になった年齢の5~6倍は生きられるのだそうです。では人間は何歳で大人になるかですが、それは顎、歯の完成度によって決められ、24歳といわれています。したがって24歳×5倍=120歳まで生きられるということになります。

では何故現実として、なかなか120歳まで生きられないかですが、癌、心臓病、脳溢血、脳硬塞等いわゆる成人病がそれを邪魔しているわけで、これら成人病をなんとか排除すればよいということになります。

話が少し、くどくなりましたが、着眼大局を「120歳まで生きる」と定めてみると、私などはまだ人生半ば、もう一度大きな夢を持って、やってやろうという意欲が沸々と湧いてきます。では、着手小局は何か、ということですが、次の3点を実践しております。

第1は、よく噛む。（心臓病予防、脳の血液の流れをよくする）第2は、よく笑う。（癌予防）第3は、大股で、よく歩く。（血行促進）

以上3点はすべての人に適切だと思いますが、あと2点ほど、それぞれ独自で付け加えていただきたい。これらを着実に実施すれば、目標は達成できるはずですが、残念なことに私自身がまだ最終的に確認しておりません。

今後上記を実施され、目標を達成された方は、ぜひ御一報ください。